

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和6年11月22日（金）13時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・「人権が尊重される三重」をつくるこどもサミットを開催します
- ・「郷土三重を英語で発信！ワン・ペーパー・コンテスト」を開催します

質疑事項

- ・「人権が尊重される三重」をつくるこどもサミットを開催します
- ・「郷土三重を英語で発信！ワン・ペーパー・コンテスト」を開催します
- ・令和7年度教職員人事異動基本方針について
- ・全国学力テストの都道府県別成績の公表見直しについて

発表項目

○ 「人権が尊重される三重」をつくるこどもサミットを開催します

県教育委員会ではこの度、「人権が尊重される三重」をつくるこどもサミットを開催いたします。配付資料の1、概要のところにありますように、このこどもサミットは、子どもたちの意見を表明する権利や、参加する権利を実現する機会として開催するものです。小中高と異なる校種の子どもたちが、各学校地域で取り組んできた活動や、人権が尊重される地域社会をつくるために考えたこと等を報告のうえ、交流いたします。当日は、今年度の研究校から代表の児童生徒が参加いたします。また、司会進行を高校生が行います。12月25日水曜日、三重県総合文化センターにて開催の予定です。資料4の主な内容のところをご覧くださいと、まず（1）として、各研究校から人権尊重の意識を広める活動の報告があります。次に（2）として、児童生徒によるグループでの感想交流。最後に全体意見交流という運びになります。参加する研究校は記載のとおりです。なおこの中に、人権サークル、大台町人権サークル、志摩市人権サークルという組織が含まれていますが、これは、地域の中高生や地域住民で構成する人権サークルです。参画する子どもたちは小中高合わせて30名の予定です。なおこうした人権について学んだ小中高等学校の児童生徒が集まって、家庭、地域と連携した学習内容を発表、交流するような事業は、東海4県では、三重県のみが取組となります。

○ 「郷土三重を英語で発信！ワン・ペーパー・コンテスト」を開催します

「郷土三重を英語で発信！ワン・ペーパー・コンテスト」の開催についてです。「ワン・ペーパー・コンテスト」は、県内の中学生を対象に、郷土の三重についての学習を深め、

その魅力を英語で発信できる力を育成することを目的として、外国人観光客や県民にぜひ知ってほしいと思う三重の隠れた名所、名品、偉人や、有名な観光地の知られざる魅力について、英語でA4サイズ1枚にまとめてプレゼンテーションを実施するというコンテストです。配付資料の2、実施内容のところにも記載しておりますけれども、今年度は県内の国公私立中学生から、全部で2,032作品の応募がありました。昨年度は745作品の応募でしたので、一気に2.7倍に増えたということになります。そしてこの中から、事前審査によりまして18作品を入選として選出いたしました。コンテストでは、この入選18作品の中学生が、ワンペーパーの内容等について、1人3分程度、英語によるプレゼンテーションを実施して、その良さを競います。12月14日土曜日、三重県男女共同参画センターでの開催です。資料6の表彰についてというところにありますように、英語によるプレゼンテーションを行った中学生の中から、教育長賞を1人、小中学校教育課長賞1人、みえびい賞1人を表彰いたします。また県内の観光施設等で配布予定のリーフレットがあるのですが、8作品程度このリーフレットに掲載することにしておりまして、これについても表彰いたします。このリーフレットは今年度1,000部印刷する予定であります。去年のリーフレットをお手元に配付しましたので、参考までにご覧ください。またこの事業についても東海4県で同様の取組があるか念のために確認したところ、学校単位で地域の魅力を英語で表現する取組を行っているところはあるようですけれども、県の事業として取り組んでいるのは、三重県だけということでございます。

発表項目に関する質疑

○ 「人権が尊重される三重」をつくるこどもサミットを開催します

(質) こどもサミットの関係ですけど、これは今回初めてということになりますでしょうか。

(答) 人権のサミットは初めてです。

(質) 開催の、決まった経緯はどういう形ですかね。

(答) 経緯はここにも書かせていただいているところもあるのですが、

(質) 目的はともかくとして、どういったところから声が上がったとか、発端ですね。

(答) 子どもの権利がいろいろと重要な議論をされている中で、大人がもっと子どもの権利について理解すべきということがございます。また子ども自身も子どもの権利について理解すべきということがございますので、今回このサミットの中では、子どもたちが大人に向かって、この自分の権利というところも発信していくということでもありますので、こういう取組が子どもにとっても大人にとっても有効であるということがございます。

(質) という声がどこからか上がったのですかね。

(答) 今回配付させていただいた資料の6でも、一定の経緯を書かせてもらっていますけれども、令和元年から5年間で35の中学校区で取り組んできており、それをもっと発信していこうということがございます。今の社会の流れと相まって、こういう取組が非常

に有効だろうということできせていただくことになりました。

○ 「郷土三重を英語で発信！ーワン・ペーパー・コンテストー」を開催します

(質) ワン・ペーパー・コンテスト、これは何回目でしたでしょうか。

(答) 今回で 11 回目です。

(質) リーフレットは、これは何部作成で、何か所ぐらいで配布しておられるのかという。

(答) 1,000 部刷ります。例年、県内各市町観光課、教育委員会、セントレアに配布しているのですが、そのように、例年通りの配布となる予定です。例えば去年の配布一覧では、例えば御在所ロープウェイとか、ばんこの里とか椿大神社ですとか、赤福本店ですとか、伊賀上野城とか、配布しておりますけれども。

(答 小中学校教育課) リーフレットに掲載されたところに配布する予定です。

(質) 実際の情報発信媒体として使うのであれば、三重テラスかどうかはわかりませんが、例えば県外とか、そういった外国人観光客の方がアクセスしやすいところに。三重県内にいっちゃった、すでにいっちゃる方に配っても、あまりのような気もする。例えば配布先なんかは検討していることありませんか。

(答) ご意見として伺いしておきたいと思うのですが、そもそもの目的は、中学生の英語力の向上と郷土を愛する心の醸成になります。このリーフレットでPRするのは、2つ目の目的というところでありますので、今のところ、このような形で考えています。何かほかに考えているところがありますか。

(答 小中学校教育課) 例年通り行っていく予定です。

(質) むしろ、例えばそういったところに配布してどういう効果があったということを伝えることで、それが意義につながっていくという面の方が、つまりアウトプットを先に提示することで。ちゃんと意欲を持ってやってもらうというところも、それなのかなというふうに。

(答) 小中学校教育課としては、何か反応とか、効果とか把握していますか。

(答 小中学校教育課) 配架したところの事業所については非常に喜んでいただいているところが多いのですが、それ以上は特に把握しておりません。

(質) つまりこれを書いたことで、外国人観光客の方が三重に来たいと思ってもらうということが例えば目的として定められれば、それに向かってどういうふうなアピールをすればいいのかということも考えるきっかけになるのかなと思っただけで。毎年 1,000 部作成という感じですかね。

(答) 去年も 1,000 部です。過去もそうです。

(質) 2,032 作品という応募が 11 回で過去最多ということでもいいですかね。

(答) 過去最多です。

(質) これは増えた理由としてはどういったことが考えられるでしょうか。

(答) これは市町教育委員会の英語担当が参加する研修会等で参加の呼びかけを繰り返し

行ったこととか、これまで応募してくれていなかった市町に直接呼びかけを行ったこと、要は呼びかけを強化したことが大きな原因かと思っています。

(質) 具体的には、例えば英語サークルであったりとか授業であったりとか、どういう経緯で作られたかというのは、特に提出の基準というのはいらないのですか。あらゆる機会で作られたもので大丈夫ですかね。

(答 小中学校教育課) 夏季の休業中の課題で出していただいて、学年単位で出していただいている学校もございますし、いわゆる英語サークル、英語クラブみたいところで作成していただいているところもあります。それから、個人的に応募しているところもあって、さまざまです。

(質) 特にそこは基準があるわけではない。中学生であれば。

(答) こうでないといけないということはないです。

(質) 主に個人になるのですかね。

(答) 個人の応募です。

(質) 1人1作品ですか。

(答 小中学校教育課) 1人1作品限定です。

その他の項目に関する質疑

○ 令和7年度教職員人事異動基本方針について

(質) 人事異動基本方針ですけれども、ちょっと読んでいますと、7ページの方に退職についてというところがありまして、その中で、今年度まで「教職員組織の年齢別構成の適正化を通じた組織活力の維持等を図るため早期退職者の募集を行う」という文言が来年度から削除されているのですけど、これは制度自体がどんなものなのかということと、あとこの文言を削除した理由についてご説明いただきたいです。

(答) これまで一定の年齢、確か45歳以上だったかと思うのですけども、高齢者が非常に多くなってきている時期があって、できるだけ職員の新陳代謝という意味もあって、定年になる前に退職された方には1年ごとに退職の上積み措置が3%ありました。45歳以上になった方に対して、早めに退職していただくと、退職金の上乗せ措置がありますよということを、ある意味勧奨してきたのですけれども、今この人手不足になって、逆に高齢者の方々ができるだけ組織に残ってほしいという時期になっておりますので、優遇措置を廃止しようということです。今日の新聞に県職員の方の制度が廃止になったことが出ていたと思うのですけども、それを教職員も同様にすることです。

(質) ねらいとしては基本的には人手不足への対応ということですか。

(答) そうですね。もちろん直接的には人手不足への対応ということにはならないかもしれませんが、勧奨してまで辞めていただくというのはどうかということです。

(質) これは教育委員会事務局の中の一般職員の話なのか、それとも学校の先生の話なのか。

(答) 学校現場の教職員と県立学校の事務職員も含めてこちらの制度で、教育委員会事務局は知事部局の制度です。学校現場の教職員というふうに考えていただくといいと思います。

(質) 県立学校の事務職員の方というのは、基本的には知事部局ではない。

(答) 今回のこの退職の制度では、県立学校の制度を適用するということです。

(質) 改めて今人手不足とかいうのは何かちょっと、県庁全体でそういう話になっているのかなというふうには思うのですが、学校現場で実際どういうことが起こっているのかというと。

(答) 知事部局のことはあまり、そんなに存じ上げませんが、教育委員会はよく報道でも取り上げられていますけども、教員不足の状態になっておりまして、今年度も4月当初から欠員が生じており、9月最新の数字では30名以上の欠員が教育現場で出てきていますので、今こういう状況で、わざわざ退職金を上乘せ措置してまで、教員の早期退職を促すのはやめたいということでございます。

(質) ちなみに、教職員の採用倍率とかいうのは、この制度が始まった時と比べて。

(答) 大分違います。

(質) 具体的にどれくらい違いますか。

(答 教職員課) 本年度に実施した採用試験の倍率は3.4倍で、5年前の令和2年度に実施した採用試験は、6.1倍です。採用試験倍率は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を合わせた倍率となっております。

(答) 今、教員の採用試験全体の倍率がどんどん下がってきているのですね。ずっと前はもっとさらに、かなり高かった時代がございますので、教員の質の低下というのが、我々としては気になるところです。若い人が教員を志すそういう数がどんどん減ってきているのを我々としては食い止めたいと思っているところです。

(質) 関連してなのですが、他県でもそういう動きというものはあるのですか。

(答 教職員課) 我々が調査して知りうる範囲ですが、他府県ですでに早期退職者の募集制度を実施していない県が24県あると把握しております。あと、実施をしていると回答いただいた14県のうち、8県は見直しを検討しているという回答でした。

(質) それは、各県に対して調査を実施したということですか。

(答 教職員課) そうです。こちらから照会をかけさせていただきました。今年の7月段階の調査になります。

○ 全国学力テストの都道府県別成績の公表見直しについて

(質) 別件なのですが、一部の報道で、文科省が全国学力テストの都道府県別成績の公表見直しに向けて検討しているということがありましたけれども、そもそも知事会等で都道府県別の公表に意味があるのかというような形で疑問が呈されていたわけですが、公表自体にどのようなお考えなのかということと、見直しについてはどのよ

うなお考えですか。

(答) 全国知事会で課題認識されて、全国学力・学習状況調査が毎年必要なのかとか、公表をここまでする必要があるのかとか、知事レベルで話し合ったようではすけれども、我々の受けとめとしては、全国学力・学習状況調査は学習活動の上でモチベーションにもなっていますので、毎年やっていただくのが適当だと考えていますし、公表についても、各市町単位で公表されているということが各市町の1つのモチベーションになっていると思いますので、特に問題意識は感じておらず、今のまま継続でいいのではないかと考えているところです。

(質) 非公表になることによって、逆にモチベーション低下といった懸念のようなものはありますか。

(答) 今現在、公表をすることによって、順位を争う競争意識によって混乱を招いているというようなこともなく、一定モチベーションにつながっているように感じますから、それが公表されないということになると、そういったモチベーションの面で若干心配はあります。

以上、13時50分終了